

# 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第14号

2005年8月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353

## 木道第一期工事（約9m）完成です

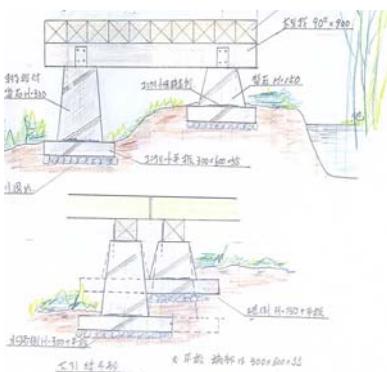


梅雨明け近い7月16日、17日の一日半で図面通りのすばらしい木道が完成しました。予想はしていたのですが、水位が高く、ぬかるみの中での工事となってしまいました。あの暑い中で工事の指導をしてくださいました山谷さん、ありがとうございました。汗と泥んこでお手伝い頂きました会員の皆さんもお疲れさまでした。8mの予定でしたが、アプローチを含め、約9mの木道の完成です。



女性を含めて参加者全員が釘打ちをし、完成後には素足で出来立ての木道を歩き、渡り初めを楽しみました。汚れない木道に寝転んで木の感触を楽しむ姿も見られました。

夏休みには、子供も大人も足元を気にせず、サンダルでザリガニ釣りができるでしょう。また、冬には蛙などが安心して冬眠できる場所になるでしょう。参考までに左に図面の一部を紹介します。（小笠原 智）



### インフォメーション展示を終えて

5月16日より一ヶ月以上に亘って柏駅横の「かしわインフォメーションセンター」（丸井3階）で開催されていた「名戸ヶ谷ビオトープ展」は好評の中に終わりました。展示に協力いただいた会員のみなさん、ごくろうさまでした。松清さん労作のカラー版「ビオトープ入会案内」は持ち帰る人も多く、インフォメーションセンターからの依頼で何度か部数を補充しました。インフォメーションセンターの川船さんのお話によれば、読売新聞が今回の展示を取り上げてから入場者が増えた、とのこと。「やはり、マスコミの力って大きいんですね」との感想でした。

また、展示期間に受けた質問については、① 不耕起稲作って何か ②名戸ヶ谷ビオトープって何処にあるのか ③ホテルは出るのか、等が一番多かったとのことです。（広報編集部）

**お知らせ** 読売新聞社の推薦により、コココーラ環境教育財団主催（読売新聞社協力、環境省後援）によるコココーラ環境教育賞を受賞しました。この賞は、青少年を対象に自然を理解し教育する活動を行っているボランティアに与えられるもので、ビオトープにおける名戸ヶ谷小学校との活動が評価されたものと思われまます。私たちの活動が対外的に認められたことは大変嬉しいことです。尚、千葉県では名戸ヶ谷ビオトープを含む2団体が受賞しました。表彰式は8月19日（金）12時～17時、東京国際交流館で他の受賞団体と一緒に行われます。（篠崎 将）

# 生きもの観察会

6月5日、今年最初の生きもの観察会を行いました。小・中学生15名、大人12名、主催者側7名、の合計34名が参加。3人の先生の説明を聞いた後、用意された網で子どもたちはアメリカザリガニやオタマジャクシを捕まえ、容器の中に入れられたいろんな生きものを覗き込んでいました。

先生による生きものの解説が始まると、子どもたちとの楽しいやりとりが始まります。「キアゲハの幼虫は何故毒々しい色をしているのか」との質問に対し「鳥のフンに似せているため」との答えが子どもからあり、先生もびっくり。また、「ガマには3種類があるが、とりあえずここではガマとしておこう」と云う岩瀬先生の話に対し、「ガマ以外にヒメガマというものがある」と答えた子どもに先生も驚いた様子。いつものことながら、子どもたちの生きものに対する博識ぶりに驚かされました。（佐々木光正）



## Aゾーンで発見された生きもの

ギンブナ タイリクバラタナゴ ニホンアカガエル シュレーゲルアオガエル アマガエル クビキリギリス オケラ スジエビ  
キアゲハの幼虫 カマキリ アメンボ ミノムシ(ミノガ) カワナナ オタマジャクシ サカマキガイ シオカラトンボ ツバメ  
ハクセキレイ ムクドリ カルガモ

## Bゾーンで発見された生きもの

シロオビアワフギ アシナガグモ ササグモ セイタカアワダチソウ カナヘビ ヒゲナガアブラムシ アブ ガガンボ ハナグモ シジミチ  
ョウ アメリカザリガニ ナナホシテントウ ウスカワマイマイ ハエトリグモ ナミテントウムシ フクモンテントウムシ  
カダヤシ モンシロチョウ シオカラトンボ ドジョウ

## 外来生物法 施行

200年6月より外来生物法が施行されました。特定外来生物により日本の生態系に被害がでないよう防止するための法律です。外来生物とは、例えばカミツキガメのように、元来その地域にいなかったのに人間の活動によって外国から入ってきた生物のことです。また、特定外来生物とは海外起源の外来生物で、生態系、人の生命身体、農林水産業に被害を及ぼす生物のことです。外来生物の中には、農作物や家畜、ペットのように、私たちの生活に欠かせない生きものもたくさんいます。ビオトープの中でもアメリカザリガニやカダヤシ、植物のセイタカアワダチソウやアメリカセンダングサは外来生物です。今回は特定生物として37種類の動植物が指定されましたが、この中にビオトープの生物は含まれていません。しかし、今後は二次、三次と指定が増やされていく予定です。長い年月をかけて築かれた日本の生態系は守りたいものです。（篠崎 将）

## めだかの放流



メダカの発生を3年間待ちましたがダメでした。7月17日(日)早朝6時、約10名の会員が「下田の森自然公園」に集まりました。池の中に入り簞でメダカを追いやる人、待ち構えて網で捕る人、と分担し合って約60匹頂きました。「下田の森」のご好意によるものです。生態系を乱さないため、できるだけ近い場所からの希望がかないました。

大切に飼育・繁殖して「下田の森」でメダカがいなくなったときは恩返しができるようにしましょう。1番水田に15匹、2番水田に15匹、ホテルの池に30匹放流しました。（才川 寿麿）

## 水田稲作部会

### 田んぼにはザリガニがいっぱい

今年の田圃の中には、ザリガニ、おたまじゃくしがいっぱいです。おかげで畦は穴だらけです。水がないと思って見回ると、ザリガニの穴から水が抜けています。埋めてもまた開けられます。来年は何とかしなくてはね。稲の生育は今年も順調です。6月の定例作業日に草取り、畦の草取りを行いました。その後7月8日(金)には、増田さん夫妻、小岩井さん以下10名近いピオトープ会員の指導の下、名戸ヶ谷小学校5年生全員が泥んこになって田圃の草取りをしてくれました。もう直ぐ穂が出るでしょう。今年も雀ネットをかけます。暑いですが協力をお願いします。(小笠原 智)



前に田植えをして今度は草取りでした。気持ちの悪いのは慣れていたので大丈夫でした。草がなくても米がいっぱいできるように土をかき混ぜます。なぜ混ぜるだけで穂が増えるのかなあ、と思いました。前よりすぐ穂が伸びていました。脱穀の時もがんばりたいです。  
5年 木村 大珠

7月8日にピオトープで草取りをしました。草がこんなに早く伸びるとは思いませんでした。中に入ったらくモが泳いでいて、びっくりしました。そして手で周りをかき回しました。全部やり終わった頃には足がすごい泥だらけになっていました。大変だったけど楽しかったです。  
5年 大島 愛海

## 不耕起稲作部会

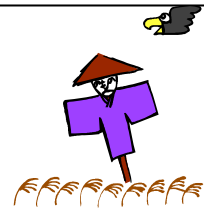
### ○水田の草取り

5月29日(日)、6月18日(土)に草取りを行い、7月8日(金)には名戸ヶ谷小5年生児童が不耕起の田圃でも草取り体験を楽しみました。

### ○イネミズゾウムシが発生

今年は田植え後の天候が不順なため、イネミズゾウムシが多数発生しました。我々の水田は休耕田から再生3年目で、地力の低下があります。また、昨年秋から水田田圃の溝工事で湛水期間が短いことから地力の回復が遅れた、などが原因して今年は昨年より稲の生育が悪く、また一つ挑戦する宿題をいただきました。

(才川 寿麿)



## 生きもの部会

6月18日の作業日は、Bゾーンの草刈を行いました。Bゾーンの北側半分は大型植物のガマ類・ヨシ・マコモをほぼ全面的に刈り取り、小型の水田植物の生育を促すことにしています。今回は才川さんの草刈機に助けられてマコモの草刈りを集中的に行いました。また、ミドリハツカやアメリカセンダングサなどの外来植物の駆除も行いました。(佐々木 光正)



## ホタル観察会

名戸ヶ谷病院の西側裏手の駐車場わきの水路にホタルが生存しています。去年はホタル発生が少なく、見学会は実施できませんでした。今年も7月上旬までは発生が見られず、心配していましたが、7月中旬以降になってホタルが飛翔するようになり、7月31日、柏ホタルの会が呼びかけて、関係者のみの内輪の見学会を開きました。当日は、水面に近い辺りが主ですが、30匹以上の飛翔が見られ、ケイヨーD2 が閉店になってその駐車場の照明が消されると、数メートルの高さまで上がり、参加者一同感激をもって観察することができました。また、中原小学校裏手の湿林(写真上)にもホタルの生存が確認されており、柏ほたるの会が中心になって7月上旬に観察会を開いております。(高田 昭治)





# ビオトープの生きもの



## シュレーゲルアオガエル アオガエル科 一般保護生物

体長は雄 3.5~4.5cm. 雌 5~6cm. で、モリアオガエルより小さい。背は一様に緑で、時に黄色の斑点がある。アマガエルに似ているが、体の背面に暗色斑がなく、目の前後の暗色斑もない。背は円滑で前後肢とも水かきと吸盤がある。平地や丘陵地に分布し、水田の畦などの地中の穴に直径 8cm くらいの泡状の卵を産む。四肢でゆっくり歩く姿がユーモラスである。



## アマガエル アマガエル科

体長 3~4cm. で背面は環境によって変化し、黄緑色、緑色、灰褐色などになり、地色より暗色の班紋をあらわす。この班紋は頭部では不規則形、四肢では横帯になる。目の前後に黒色の帯状紋がはっきりしている。四肢に吸盤がある。5~6月に池や水田などに産卵する。少数の卵からなる卵塊を水草などにつける。(篠崎 将)

## 渡良瀬遊水地見学を終えて

渡良瀬遊水地は、栃木、群馬、埼玉、茨城の4県にまたがる面積33平方キロの日本最大のヨシワラの人口湿原です。タチスミレやチョウジソウなど絶滅危惧種の植物が45種確認されており、またワタラセハンミョウモドキなど渡良瀬にしかない貴重な昆虫が生息する自然環境でもあります。名戸ヶ谷ビオトープとは比較しようもないのですが、人間の営みと自然との関係を示す1つの例として学ぶべきものが多い存在であると考え見学会を企画し、6月12日(土)、有志8名で渡良瀬遊水地見学会を行いました。天候にも恵まれ、遊水地の広大なヨシ原は限りなく緑でした。



現地では栃木県藤岡町にある「渡良瀬遊水地湿地資料館」のご協力をいただき、遊水地に関する説明の他、遊水地内のウオッチングタワー、谷中村史跡保全ゾーンなどをご案内いただきました。桑のみがあちこちになっており、参加者が懐かしい子どもの頃の思い出を語り合う場面もあり、和やかな見学会でした。

帰りには野田市に今年4月に開園した「三ツ堀里山自然園」に立ち寄り、ビオトープの在り方を考えさせられました。(松清 智洋)

編集後記： 梅雨明けと共にまた巡ってきた猛暑の夏。ビオトープをわたる微風に、白い穂をつけた青い稲の波が揺れています。木の香も新しい木道第一期工事も完了し、ビオトープの整備も順調に進んでいます。子どもたちや市民に喜ばれるビオトープにまた一歩近づきました。7月のN地点での観察会に続いてD2横でのホテル観察会が実現したのも嬉しいことでした。畦にザリガニが開ける穴のチェックなども兼ねて、散歩がてら、みなさん、是非ビオトープに立ち寄ってください。 広報編集部(春山)